



氏名: マリア・ドローレス・アグエロ・ララ
役職: ホンジュラス外務・国際協力大臣
出身: ホンジュラス
(略歴)

チリ大学及びドイツのハイデルベルク大学にて投資・貿易・仲裁国際法学修士を取得。ホンジュラス外務・国際協力省で対外政策局統合課長、外務次官等のキャリアを経て、2017年3月27日から外務・国際協力大臣として活躍している。

過去を振り返ると、社会における女性の役割は大きく変化してきました。世界レベルでは、立法機関における女性の参画が劇的に増加しました。この道のりは容易ではありませんでしたが、社会、政治、経済、文化の面において、女性の積極的な参画を制限してきた障壁を取り払い、ガラスの天井を打ち破ることに成功した前例があります。第5回WAW!/W20は、更なる活躍が期待される全ての女性のために、女性のエンパワーメントの一層の発展と促進及び男女平等の達成に貢献することでしょう。



氏名: ミチエル・バチェレ
役職: 国連人権高等弁務官
出身: チリ
(略歴)

医学部卒(小児科、公衆衛生専門)。国防大臣及び厚生大臣を歴任後、2期(2006-2010、2014-2018)にわたりチリ大統領を務めた(チリで初の女性大統領)。2018年9月に第7代目国連人権高等弁務官に就任。

女性が真に社会的に力を得たと言えるのは、家庭、職場、公的な意思決定において、尊厳と自主性を持って、自らの人権や選択を十分に行使できるとき、と言えるでしょう。私たちは、ジェンダーの平等、女性や少女の人権の実現において、大きな成果をあげてきました。しかし、全ての人々が輝き、自らの可能性を最大限に引き出すことができる社会を作り出すまでの道のりはまだ遠いといえます。私たちは、勇気を持って共に取り組み、真の平等を妨げている家父長制度に基づいた根強いステレオタイプをいかにしてなくすかについて、じっくりと議論する必要があります。



氏名:ライアン・ブレナン

役職: Overseas Private Investment Corporation (OPIC) 上級副社長代理

出身: アメリカ

(略歴)

OPICで投資施策担当副社長を務めた後現職。20年の投資経験を持つ。過去には、23億ドル以上の資産運用を行うベンチャー投資会社Advantage Capital Partnersのマネジングディレクターとしても活躍。トゥルーマン州立大学学士、ペンシルベニア大学ウォートンビジネススクールにてMBA取得。

OPICは、女性へ投資することの重要性を対話し続ける所存です。私達が影響を与えた女性の数を重視するだけでなく、私達の行うそれぞれの投資において彼女達を重んじていきたいのです。



氏名: ハナ・エドワール・ジョージ・ブシャ

役職: イラク・アル・アマル協会代表

出身: イラク

(略歴)

人権、女性の権利、民主主義の分野で50年以上にわたり活動する活動家で、アル・アマル協会の共同設立者。ジェンダーの平等や、意志決定権のある地位、平和構築、安全保障、法律、和解における女性の役割の強化について数多の活動を率いてきた。

2015年に引き続き2度目のWAW!への参加となります。女性を取り巻く状況には近年多くのことが起こりました。

戦争中、イラクの女性達は忌まわしい性暴力の対象となり、国連の文書では大量殺戮や人間性に対する犯罪に匹敵するものとされました。困難の末にナディア・ムラド女史が2018年にノーベル平和賞を授与されました。

2019年のWAW!が、SDGs2030の中の不可欠な部分として、平和、安全、正義、進歩といった人類の希望の達成に向けて、平等、エンパワーメント、あらゆる階層における意志決定への参加への女性による要求の正当性を拡大するものとなることと信じています。



氏名: 千葉 宗一郎
役職: Y20委員会 会長
出身: 日本
(略歴)

G20に政策提言を行う、公式関連組織“Y20”会長。G7伊勢志摩サミットではY7サミットを立上げ、日本政府に共同声明文提出。ロシア開催のY20ではプーチン大統領に金融規制に関して提言。G20大阪サミットの開発作業部会では人的資本投資に関して提言。北京大学/早稲田大学卒。

グローバル化や技術革新により必要とされる仕事内容が変化していく社会で、男女問わず人が「輝く」社会を実現するためには、単なる仕事の継続を目標とするだけでなく、一人ひとりが自信と誇りを持って行動できる環境を整えることが必要だと感じています。企業・政府・学術機関が連携してこのような環境づくりを推進し、女性が輝く社会を実現するため、WAW!では議論を行いたいと思います。



氏名: ベンジャミン・コルトン
役職: State Street Gold Advisors アセット・スチュワードシップ・アジア太平洋地域責任者
出身: アメリカ
(略歴)

グローバルの投資戦略における議決権行使方針の策定と実行についての全責任を持ち、議決権行使と、ESGに係る投資先企業へのエンゲージメントを担当するアセット・スチュワードシップ・チームのアジア太平洋地域責任者。以前はノルウェー中央銀行インベストメント・マネジメントのアクティブ・オーナーシップ・チームに在籍。

ステート・ストリートの“Fearless Girl(「恐れを知らぬ少女」像)”は、今現在リーダーシップを発揮され、次世代の女性リーダーを鼓舞されている女性リーダーの方々の志を祝福します。“Fearless Girl”を設置したその日、私たちはアメリカとイギリス、オーストラリアの何千もの投資先企業に対し、女性取締役を増やすように呼びかけました。その後“Fearless Girl”キャンペーンを日本とカナダにも拡大し、世界的に影響を与え続ける取り組みを行っています。このキャンペーンがカタリスト(触媒)となり、日本においてもそれまでは女性取締役が不在のTOPIX500構成企業のうち、281社の18%、51社において新たに女性取締役が誕生しました。



氏名:伊達 公子

役職:テニスプレーヤー／JICAオフィシャルサポーター

出身:日本

(略歴)

高校生でインターハイ3冠を達成し、卒業後プロに転向。世界ランキング4位を記録。1996年引退後、2008年に現役復帰。17年に2度目の引退。JICAオフィシャルサポーターとしては、2002年の就任以降JICAのイベント出演や開発途上国での活動視察など多数活動。

2002年にオフィシャルサポーターに就任し、16年が経ちました。数多くの開発途上国の現場を視察し、キッズテニスを開催してきました。どこの国でもテニスコートを駆け回る子供たちの笑顔は、まぶしいくらいに輝いていて、そこには男女の差もありませんでした。スポーツには、性別や様々な「違い」を超える力があると信じています。現役選手時代はなかなか活動に協力することはできませんでしたが、今後は私も国際協力への新たな取り組みを考えていきたいと思っています。



氏名:リサ・デシャン

役職:ノバルティス ファーマ事業部

中枢神経領域グローバル責任者

出身:アメリカ

(略歴)

NYU Stern School of BusinessでMBAを取得。中枢神経ポートフォリオの戦略的計画、商品化および事業開発をグローバル規模で担当。社会貢献や患者さんへの貢献を実現させるための企業文化を促進。家庭内暴力の根絶や小児がんなどの慈善活動に取り組む。

すべての女性が活躍する社会を創るためには、世界的規模で、女性に 顕著に影響を及ぼしている課題である「BRAIN DRAIN(就業機会の損失)」に取り組む必要があります。アンメット・メディカル・ニーズ(いまだ有効な治療法がなく患者さんが困っている疾患分野の医療ニーズ)の高いアルツハイマー病や片頭痛、多発性硬化症は、壮年期の女性に重い負担を与える疾患です。自分自身が患者や介護者になることで、想定よりも大幅に早く離職せざるをえなくなることがあります。このことは世界経済にも大きなインパクトを与えます。

女性である私たちには世界に変化をもたらす結束力があります。W20のような機会を通じて私たちの声や経験、情熱を結集し活かすことで、私たちはこの重大な課題を明らかにし、その解決に向けて一緒に取り組んでいくことができるでしょう。そのことで、中枢神経疾患に苦しむ患者さんが、普通の生活を取り戻すことに貢献できるかもしれません。



氏名: 厚子・東光・フィッシュ

役職: Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI) 創設者

出身: 日本

(略歴)

日本の女性リーダー育成に長年従事。Japanese Women's Leadership Initiative (JWLI)、Champion of Change Japan Award (CCJA)、JWLI Bootcampを設立・運営。2018年には活動の拡大・展開を目指し、JWLI Ecosystemを設立。2012年に外務大臣表彰、2013年ホワイトハウスよりChampion of Change賞、2018年には旭日小綬章を受賞。米国ボストン在住。

W20東京開催おめでとうございます。意見の発表の機会を有難うございます。日本 経済における女性の活躍の機会をW20の見地から議論する大切な機会だと思います。女性の社会経済の進出を語る時に、ひとつ忘れてはならない事は、ソーシャルセクターに於ける、女性達の経済的社会的貢献の大きな可能性です。特に高齢化、人口減少化が加速する今の日本でソーシャルセクター、及び女性の社会起業家が社会改革をリードする力は、世界的に大きな影響力があると思われます。W20での話合いを楽しみにしています。



氏名: 後藤 順子

役職: デロイトトーマツグループ ボード議長

出身: 日本

(略歴)

有限責任監査法人トーマツ入社後、主として大手金融機関に対する監査業務に従事。金融インダストリーリーダーを務めた後、2018年6月より現職。9年間の米国駐在経験を有し、2012年から2015年にはダボス会議にデロイト代表団唯一の女性として参加。

社会の持続的な発展のためには、女性一人ひとりが持つ個性とパワーを最大限に活かす機会と、女性が真に受け入れられ安心して活躍できる、多様性を重視する文化の醸成が必要です。女性が尊重され、輝ける社会は、女性だけではなく、全ての人のためにも生きやすい社会となるでしょう。私は経済社会の公正な発展のために、ビジネスにおける多様性の実現を後押ししていきたいと考えています。



氏名: アリス・グラハム

役職: 日本マイクロソフト 執行役員 政策渉外・法務本部長

出身: アメリカ

(略歴)

University of Florida School of Law卒。森・濱田松本法律事務所やUnited Services Automobile Association等に弁護士として勤務。2006年マイクロソフト入社、2018年に日本マイクロソフト転籍。国内外の企業内法務における20年以上の経験を活かし、日本人の生活に変化をもたらすデジタル変革を推進している。

WAW!/W20の開催を心から歓迎します。当社は「地球上のすべての個人とすべての組織が、より多くのことを達成できるようにする」という理念の元、Empowered JAPAN Projectを立ち上げました。政府や地方自治体、協力団体と連携し、女性を含む全ての個人と全ての企業が持つ可能性が最大限に発揮されるための「いつでもどこでも誰でも学び、働き、そして学び直せる社会づくり」を全国で推進していきます。



氏名: haru.

役職: HIGH(er)magazine編集長/学生

出身: 日本

(略歴)

小学校、高校時代をドイツで過ごし、2015年東京芸術大学入学。2015年に『HIGH(er)magazine』を刊行。「日常の延長線上にある個人レベルの問題」に焦点を当て、「同世代の人と一緒に考える場を作ること」をコンセプトに毎回のテーマを設定している。

想像力をもって人と接すること、今隣にいる人の生き方を否定しないこと。これができなければ女性たち、そしてマイノリティと呼ばれる人たちが真の意味で輝く社会は訪れない。

女性は何人子供を生むべきだとか、LGBTの人たちには生産性がないなどと平気で言ってしまう政治家たちが国を代表した気でいれるのも、もう時間の問題だよ。自分の持つ力を自覚しよう。今、自分の言葉で話すことをやめないで。私たちは誰しもがメディアになれるのだから。



氏名: 林 文子
役職: 横浜市長
出身: 日本
(略歴)

BMW東京(株)代表取締役社長、(株)ダイエー代表取締役会長兼CEO、日産自動車(株)執行役員等を経て、2009年に横浜市長就任。現在3期目。保育所待機児童対策、起業支援、ネットワークづくりなど、女性の活躍支援に力を注いでいる。

女性活躍に向けた熱い思いを持つ国内外のリーダーが集い、WAW!/W20が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

2014年の初開催以来、毎年WAW!に参加させていただくたびに大きな励ましを得てまいりました。今年はW20との合同開催で、一層盛りだくさんの議論が交わされると確信しています。

人を動かすのは人に他なりません。御参加の皆様とともに、すべての女性が輝く社会の実現につながる力強いアクションを起こしていきたいと思っております。



氏名: 本田 哲也
役職: ブルーカレント・ジャパン株式会社代表取締役社長 / CEO
出身: 日本
(略歴)

1999年フライシュマン・ヒラード入社。2006年ブルーカレント・ジャパンを設立。2009年に『戦略PR』を上梓、広告業界にPRブームを巻き起こす。

戦略PRの著作、講演実績多数。世界的な業界誌PRWeek「PR Professional of the Year 2015」受賞。2017年カンヌライオンズPR部門審査員。

ジェンダーイコールの機運は高まり、最近ではメディアや広告PRが与える影響にも議論が広がり始めました。私はPRコミュニケーションの専門家であり、またWAW!との関わりも5年目になります。その立場から俯瞰しますと、メディアや広告会社がジェンダーイコールに正しく向き合い取り組んでいくことが喫緊の課題であると同時に、メディアコミュニケーションの持つパワーがジェンダーイコール社会の実現にも寄与すると信じています。



氏名:伊東 正仁

役職:損害保険ジャパン日本興亜 取締役 専務執行役員

出身:日本

(略歴)

1984年京都大学を卒業後、日本火災海上(現 損害保険ジャパン日本興亜)に入社。CSR部長、経営企画部長を経て、2018年4月より現職。また、2015年4月より人事担当として、「DIVERSITY FOR GROWTH」に精力的に取り組んでいる。当社は、2016年度「女性が輝く先進企業表彰」で「内閣総理大臣表彰」を受賞。

企業のマネージメント層にダイバーシティ&インクルージョンによる成功を体験させることで女性達のチャレンジの機会が拡大し、マネージメントの心が変わり態度が変わり行動が変わり成功体験が双方の右脳に刻まれる。そしてD&Iと成長の好循環が生まれる。

そのために、Male Championとしてマネージメントのチャレンジを強力にサポートし続けることが女性が輝く社会の実現に繋がると確信している。



氏名:岩田 喜美枝

役職:麒麟ホールディングス社外取締役

出身:日本

(略歴)

東京大学卒業後、労働省(雇用均等・児童家庭局長を含め32年)、資生堂(代表取締役副社長を含め12年)、21世紀職業財団(会長として6年)を経て、現在は3社の社外取締役、3大学の理事/経営協議会委員、東京都監査委員等を務める。

企業における女性の活躍は近年大変大きく前進しています。それは、経営者が、女性活躍推進を人権や従業員福祉の問題としてだけでなく、むしろ企業の成長のための人事戦略としてとらえるようになったからだと思います。やっと女性は育児期に仕事が継続できるようになりましたが、管理職や役員として活躍する女性が増えるためには、男性の働き方や男性の家庭責任の担い方が変わらなければなりません。



氏名：治部れんげ
役職：ジャーナリスト／昭和女子大学研究員
出身：日本
(略歴)
日経BP社で16年間、経済誌記者。2006～07年ミシガン大学フルブライト客員研究員。2014年より現職。2015年よりWAW!アドバイザー。一橋大学大学院経営学修士課程。著書に『稼ぐ妻 育てる夫』(勁草書房)、『炎上しない企業情報発信』(日経新聞出版社)など。

今年のWAW!/W20では、女性のエンパワーメントについて、人権・社会・経済と多角的に扱います。世界各国の女性リーダー、男性、若者が集まり、昨年のG20共同声明で言及された「ジェンダー主流化」の最先端について、知見を共有します。参加される皆様、ぜひ楽しみ、人脈を広げ、そして日々の生活やお仕事に生かしていただきたいと思います。会場でお目にかかるのを楽しみにしています！



氏名：サンドラ・エリカ・ホベル・ポランコ
役職：グアテマラ外務大臣
出身：グアテマラ
(略歴)

コンプルテンセ大学(スペイン)修士号取得(国際関係)。地域(中米)統合、安全保障、二国間外交政策、国際協力、移民問題及び国境における通関手続きを担当。外務次官、駐コロンビア大使を経て、2017年8月外務大臣に任命。グアテマラにおいて2人目の女性外務大臣。

世界各地域から特筆すべき女性が集まる重要な会議である国際女性会議WAW!およびW20サミットにご招待いただき、日本政府に感謝いたします。WAW!およびW20では、世界中から素晴らしい女性が一同に会し、労働や財政状況、デジタル環境における公平性やガバナンスを推進することにより、世界金融危機に対する解決策を模索し、持続可能な開発を実現する中で、G20へのコミットメントを高めます。グアテマラ政府の代表としてこの素晴らしいイベントに参加し、女性のエンパワメントのための戦略的アジェンダの構築を進めるという共通の課題に取り組み、自身の母国や所属する組織のみならず、グローバルに実績と成功を収める女性たちと共に、この貴重な機会を共有でき光栄であります。



氏名：片倉 正美

役職：EY Japan マネージング・パートナー BMC(ブランド、マーケティングアンドコミュニケーション)、ジェンダーリーダー

出身：日本

(略歴)

公認会計士。日系グローバル企業の監査に従事後、2005年から2年間、経済産業省商務情報政策局情報政策課にてIT政策に従事。「情報サービス・ソフトウェアに係る技術に関する施策評価検討会委員」等、政府委員を歴任。2016年より現職。

様々なライフイベントは多くの女性の生き方、働き方に影響します。デジタル技術やイノベティブなテクノロジーが、これまでよりも多様な選択肢を生み出したことで、自分にあった方法を選択できる環境が、女性活躍の大きな推進力になります。「想いの数だけ道がある」。自分の可能性を信じて、あなたの想う道を一步進む。たくさんの小さな一步が世界を変えていきます。



氏名：片山 さつき

役職：内閣府特命担当大臣

地方創生担当、まち・ひと・しごと創生担当、規制改革担当、男女共同参画担当、女性活躍担当

出身：日本

(略歴)

東京大学法学部卒業、大蔵省入省。フランス国立行政学院CSE卒業。G7・サミット政府代表団員(女性初)、主計局主計官(女性初)等を経て、2005年に衆議院議員に初当選。2010年より参議院議員。2018年より現職。

国連における「女子差別撤廃条約」の採択から40年、日本における「男女共同参画社会基本法」の公布から20年を迎える節目の年に、日本において世界初となる「WAW!とW20の合同開催」が実現することを大変嬉しく思います。

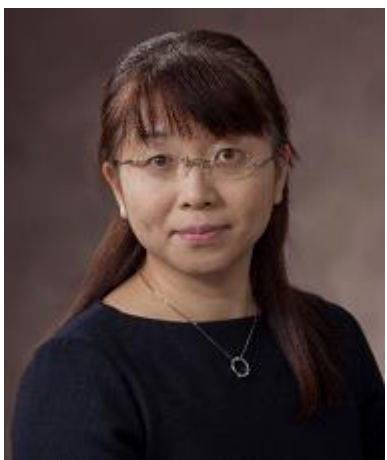
全世界で「全ての女性が輝く社会」が実現することに向けて、私から「人生100年時代」を掲げる日本の取組(女性の健康寿命延伸を含む)をご紹介するとともに、各国からの参加者の皆様と議論を深め、成果に貢献できることを楽しみにしています。



氏名: 加藤 宏
役職: 独立行政法人国際協力機構 理事
出身: 日本
(略歴)

東京大学文学部卒業。ハーバード大学ケネディ行政学院終了(公共行政修士)。1978年JICA(国際協力事業団)入団。その後、外務省勤務、JICA鉱工業開発調査部、総務部、企画部、アジア1部、国内事業部などを経て、2007年4月から国際協力総合研修所長。2008年10月研究所副所長。2013年4月研究所長、2013年10月に理事に就任。

女性たちは、地域・社会の開発や、平和の定着の重要な「担い手」(主体)です。女性たちが自分自身の生活や人生を決定する力を備え、家庭や職場、政治などの意思決定過程に参加していけば、より良い社会がきっと実現できるでしょう。JICAは、社会的・経済的に不利な立場にある途上国の女性たちのエンパワメントを後押しし、女性のリーダーシップと社会参画を推進していきます。



氏名: 河内 泉
役職: 新潟大学 医歯学総合病院・脳研究所 神経内科 講師・医師
出身: 日本
(略歴)

医師。専門は神経学・内科学・免疫学。新潟大学医学部卒業後、博士(医学)取得。米国ワシントン大学医学部研究員を経て、現職。女性医師の視点から神経疾患(多発性硬化症)の臨床と研究を行い、女性の病気・仕事・家庭の両立支援を推進。

「女性」が社会で輝くためには、2つの柱「仕事と家庭」の両立が大きな意味を持つと言われてきました。今ようやく、3つの柱「仕事、家庭、健康」を軸に、病気を抱えながらも女性が輝くことができる社会の実現に向け、歩みを一歩、前に進める時が来ました。

現在、働く人の約3人に1人が病気を抱えながら仕事をしています。がんはもはや不治の病ではなく、若い女性に多い多発性硬化症をはじめとした一部の希少・難治性疾患には新たな治療法が生み出されはじめています。働きながら治療し、幸せな家庭生活を送ることができる時代はすぐそこにあります。「女性のチカラとチエ」は、家庭も、仕事も、健康も、すべてを両立できる持続可能な社会を実現する原動力になると信じています。



氏名: カリン・クナイスル

役職: オーストリア欧州・統合・外務担当連邦大臣

出身: オーストリア

(略歴)

2017年より現職。1990～1998年までオーストリア外務省国際法局やパリ、マドリードのオーストリア大使館に勤務。国際法、中東情勢及びエネルギー政策を専門としたフリージャーナリスト、オーストリア放送協会を含む各種メディアのためにコメンテーター、特派員として活動。著書・寄稿多数。

ジェンダー平等は、社会的に公正な経済社会かつ継続可能な社会であるための必須条件です。しかしながら、平等というのは単なる法的な規定以上のことを意味しています。それは私たちの社会での日常生活における暮らしの平等のことなのです。差別撤廃と世界の女性たちの状況改善のための闘いが、オーストリア対外開発政策の長期にわたる関心事項であるのはこれが理由です。オーストリアの焦点は、女性・平和・安全保障に関する問題解決や、政治や経済における女性のエンパワメント、そしてジェンダーに基づく暴力にあります。2019年から2021年のジュネーブ国際連合人権理事会の一員として、我々は女性の権利保護にもまた特にコミットしています。



氏名: 小木曾 麻里

役職: 笹川平和財団 ジェンダーイノベーショングループ長

出身: 日本

(略歴)

インパクト投資、ジェンダーレンズ投資の促進および社会起業家支援等に幅広く携わり、2017年に「アジア女性インパクトファンド」設立。世界銀行金融スペシャリスト、世界銀行グループMIGA東京事務所長、ダルバーク東京事務所長等を歴任。東京大学経済学部卒業。

女性起業家や女性が自分の最大の潜在力を発揮出来る様、持続可能な金融システムや投資のありかたを提案します。



氏名: 河野 太郎

役職: 外務大臣

出身: 日本

(略歴)

1985年、米国ジョージタウン大学卒業後、富士ゼロックス株式会社、日本端子株式会社勤務を経て、1996年、衆議院議員選挙に初当選し、現在まで8回当選。総務大臣政務官、法務副大臣、衆議院外務委員長、国家公安委員会委員長、行政改革担当大臣、国家公務員制度担当大臣、内閣府特命担当大臣(消費者及び食品安全 規制改革 防災)を歴任し、2017年より現職。

2014年に始まったWAW!も5回目を迎えました。今回の会合が、過去の成果を振り返りつつ、現在の日本社会及び国際社会が抱える諸課題について、性別、年代を超えて議論する場になることを期待します。私も登壇する女性外相の皆様とのパネル・ディスカッションでは、率直な意見交換を通じて、女性の活躍推進の重要性を再確認するとともに、世界に力強いメッセージを発したいと思います。WAW!/W20の開催により、国内外で女性活躍推進の機運がさらに高まることを確信しています。



氏名: 工藤 禎子

役職: 株式会社三井住友銀行 常務執行役員

出身: 日本

(略歴)

1987年、住友銀行入行(現 三井住友銀行)。2017年4月より現職。2018年6月よりトヨタ自動車株式会社社外取締役。長年に亘りプロジェクトファイナンス業務に従事し、2012年に成長産業クラスター室長に就任。成長分野における金融ソリューション開発を主導。

当行では、「2019年度末までに女性管理職比率25%」という目標を掲げています。この背景には、責任あるポジションにつく女性が増えれば、経営に多様な価値観が取り入れられ、より一層価値あるサービスのご提供を通じて、当行がお客さまに選ばれ続ける存在になれる、という思いが込められています。

「自分が運転席に座り、ハンドルを握る」。女性の皆さんにはそのような意識で、さまざまな仕事に臆することなくチャレンジしてほしい。女性が輝く社会を一緒に作っていきましょう。



氏名: 国谷 裕子
役職: 東京芸術大学理事
出身: 日本
(略歴)

米ブラウン大学卒業。1989年からNHK衛星放送「ワールドニュース」キャスター。1993年～2016年3月までNHK総合テレビ「クローズアップ現代」キャスター。1998年放送ウーマン賞。慶応義塾大学特任教授、国連・食糧農業機関(FAO)親善大使、自然エネルギー財団理事

日本の男女平等指数はいまだに先進国で最低水準。育児休業制度や保育環境の整備など制度面の充実で女性の就業率は急速に伸びているが、様々な分野において決定権を持つ地位の女性がとても少ない。男性と女性が本当に平等であるという意識をどうすれば早く醸成出来るだろうか。



氏名: 九嶋 俊一
役職: 株式会社 日本HP専務執行役員／パーソナルシステムズ事業統括
出身: 日本
(略歴)

1988年に入社。マーケティングやコンサルティング部門を経て、2014年よりPC事業の責任者へ。2017年より現職。ITデバイスのセキュリティに精通。働き方改革やダイバーシティ&インクルージョンに関する各種イベントで講演。

HPは、80年前の創立時から多様な人材が能力を発揮できる環境づくりを推進してきました。昨今、国内においても在宅勤務や時短勤務などの導入が広まる中、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方を支えるITはこれまで以上に重要となっています。HPが掲げる“世界中の人が、より良い暮らしを実現する”というビジョンのもと、人々に価値をもたらすテクノロジーと環境づくりを今回の会議を通じて皆様と共に考え、女性が輝く社会の実現を支援してまいります。



氏名: ヴァージニア・リトルジョン

役職: Quantum Leaps 社長・共同創設者

出身: アメリカ

(略歴)

国際貿易センター(ジュネーブ)の女性と貿易プログラム

SheTradesのリードストラジスト、2016年以降W20米国代表、及び2019年W20Japanの女性起業精神ワーキンググループ共同コーディネーター、女性のイノベーションを動かすFutureForward共同創始者、IGNITE(女性により革新的なエコシステムの創造)編集長、インドCatalyst for Women Entrepreneursグローバル戦略アドバイザー

私は、本年度W20サミットを日本が開催するという、また女性の起業について分科会の司会を依頼されたことを非常に嬉しく思っています。私は東京の高校で就学して以来の日本通で、その間私の母は上智大学を卒業し、日本人の自衛隊幹部将官夫人に英語を教えたり、代わりに日本文化の生け花を教えて頂いたりしていました。私は、W20が、日本の女性起業家や社会起業家創出を促進するきっかけとなり、また女性が作り出す経済「ウーマノミクス」という夢を現実化し、日本の「女性の輝く社会」への一助となり得ると信じています。



氏名: 前田 育穂

役職: 朝日新聞社 総合プロデュース室 主査

出身: 日本

(略歴)

慶応義塾大学卒。2000年朝日新聞社入社。甲府、青森総局、東京本社文化くらし報道部、社会部で子育てや教育をテーマに取材。2017年より現部署で2030年の日本を考えるメディア「朝日新聞DIALOG」、40～50代の女性のエンパワメントプロジェクト「Aging Gracefully」を担当。

「お子さんが小さいからこの仕事は無理だね」

「学生だから分からないと思うけど」

「ずっと主婦だったし」

「女性活躍」と言われて久しいですが、女性が自分らしく生きることを阻む壁は、社会の中にも、私たちの意識の中にもまだまだあるように思います。メディアで働く人間として、様々な立場の女性たちの思いに想像力を働かせ、声を聞いて発信し、つないでいくことで、そうした壁を壊す役割を果たしていきたいと願っています。



氏名: 前岡 和

役職: 成蹊大学3年(法学部政治学科) / World Vision Japan ファンドレイザー

出身: 日本

(略歴)

成蹊大学法学部3年。国際政治学専攻。16年～18年にケニアでソマリア人ギャングの社会復帰支援に参画。現在は国際NGO World Vision Japanのバックオフィスで、途上国コミュニティ開発事業の資金調達を担当している。

近年「性」にまつわる社会課題や人々の意識は、日々さまざまな刺激を受けつつ大きく変化を遂げているように思います。

大学生の私は、就職活動を始めて以降、そうした動きを「いち女性」の当事者として肌で感じる機会がぐっと増えました。

今回のWAW!を契機に、この動きを今後ますます加速させ、いかなる性を自認する人にとっても生きやすい社会を実現するために、若者の立場から小さな畝りを作って行けたらと思っています。



氏名: マニヤン 麻里子

役職: 株式会社TPO 代表取締役

出身: 日本

(略歴)

一橋大学社会学部卒、仏HEC経営大学院修了。パリの雑誌出版社、ゴールドマン・サックス証券などを経て、2016年に株式会社TPOを創業。多様な人材が幸せに活躍できる未来を目指し、日本初のコーポレートコンシェルジュサービスを提供している。

「女性が輝く社会」は、女性はもとより、あらゆる人が輝く社会。一人ひとりの権利と個性が尊重され、多様性が価値を持つ社会。

すべての人が理想の社会に向かって臆することなく、社会を変革する意識を持って、行動することが、今、必要だと思います。

今回のWAW!がまずは女性からのアクションとして、より大きな変革のための起爆剤になることを願っています。



氏名: キャシー・松井

役職: ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長

出身: アメリカ

(略歴)

ゴールドマン・サックス証券株式会社 副会長、チーフ日本株ストラテジスト。

99年に「ウーマノミクス」を提唱し、ダイバシティは経済成長やイノベーションに不可欠との分析を各分野で説く。

ハーバード大学、ジョンズ・ホプキンス大学院(SAIS)卒業。

所得格差、低経済成長、貧困、テロリズム、そして病気。世界は何十年もの間、前述した世界規模の課題に対してそれぞれ個別に取り組もうとしてきました。私はこれら諸問題の特効薬となるのは、男女平等のさらなる推進であると考えています。これがWAW!とW20の理念です。そして、これまでに積み重ねられた議論や培われた協力関係は、ベストプラクティスを共有し、建設的な解決策を導き出し、世界をより平等で平和で豊かな社会に近づけることを可能にすると願っています。



氏名: 松川 るい

役職: 参議院議員

出身: 日本

(略歴)

1993年に東京大学法学部卒業後、外務省に入省。主要ポストを歴任した後、2014年に総合外交政策局女性参画推進室長として第一回目のWAW!を担当。2016年7月に参議院議員として初当選。

WAW!も今回で5回目。WAW!立ち上げを担当した私としては感無量です。日本の女性活躍のため男性の育児休業の義務化をしたいと考えています。WAW!が世界の女性活躍のため益々パワーアップしますように！



氏名: 松岡 宗嗣

役職: 一般社団法人fair代表理事

出身: 日本

(略歴)

明治大学政治経済学部卒。2018年に一般社団法人fairを設立。ゲイであることをオープンにしながら、政策や法制度を中心としたLGBTに関する情報発信やキャンペーンを展開。教育機関や企業、自治体でのLGBTに関する講演多数。

女性も平等に扱われる社会を実現するためには、男性が自身の特権性を自覚し、機会や資源の平等にどうコミットできるかを考え、行動することが必要不可欠です。そして「女性」という枠組みの中にある多様性、さらに女性、男性という枠には収まらない性の多様性を認識し、制度設計や文化の醸成を進めていくことが、すべての人が輝く社会にとって重要だと思います。



氏名: 目黒 依子

役職: 上智大学名誉教授／女性・平和・安全保障に関する行動計画評価委員会委員長

出身: 日本

(略歴)

ケイス・ウエスタン・リザーヴ大学大学院で博士号(社会学)取得、東京大学大学院で修士号(社会学)取得。ジェンダー研究創成期より、その研究・教育に携わる。1994・95年の国連総会日本政府代表代理、1998年～2010年の国連女性の地位委員会日本代表。

W20 2019は、新しい発展のために、労働、デジタル、金融におけるジェンダー格差を解消する仕組みとしてジェンダー視点に立つガバナンスに注目した提言をG20首脳会議に提出します。重要で適切な政策でも、実施されなければ、女性の能力が十分に開花し、その価値が正當に評価される経済・社会発展に転換することは望めません。そのために、G20各国・地域でのジェンダー格差解消の進捗を示す指標枠組みの検討に取り組みます。



氏名: 武藤 友木子

役職: Uber Eats 日本代表 執行役員

出身: 日本

(略歴)

Uber入社以前は、グーグル合同会社にて新規顧客開発の日本代表、オープンテーブル株式会社の代表取締役社長、トラベルズー・ジャパン株式会社で代表取締役社長及びTravelzoo Asia Pacificのエグゼクティブオフィサーを歴任。アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)戦略グループでキャリアをスタート。

私達は、安全な交通手段と柔軟な収益機会を世界中の女性に提供するために一丸となって取り組んでいます。日本中で、Uber Eatsは外食産業におけるイノベーションの最先端に位置し、さらなる成長を続けています。Uber Eatsはボタンをタップするだけで30カ国200以上の都市の人々に料理を提供するアプリで、地元のお気に入り店から有名店まで、速さと信頼性を備えています。Uberは多様性と包括性を最優先目標とし、同社には、女性の幹部や管理職が多数在籍しています。当社は、サービスを通じて、家族がより多くの時間を一緒に過ごせるように支援しています。



氏名: ムハンマド・ナシリ

役職: 国連女性機関アジア太平洋地域事務所長

出身: モロッコ

(略歴)

国連女性機関UN Womenのアジア太平洋地域事務所長に任命。2015年から2018年までは、UN Womenアラブ諸国の地域事務所長、それ以前は、アラブとアジア地域の様々な国連機関のマネジメントに従事。

持続可能な開発目標を達成するために、我々は、全ての目標と成果を通じてジェンダー平等と女性のエンパワーメントを確保しなければなりません。真に平等な社会とは、女性と男性が同じ機会を有し、その声に同じように耳が傾けられ、皆が暴力を受けることなく暮らすことのできる社会です。ジェンダー平等と女性のリーダーシップがなければ、開発は停滞し、平和は持続せず、経済成長が十分に達成されることもありません。



氏名:中貝 宗治
役職:豊岡市長
出身:日本
(略歴)

1978年、京都大学を卒業後、兵庫県庁に入庁。兵庫県議会議員を経て、2001年、豊岡市長に初当選し、現在5期目。コウノトリの野生復帰をはじめ、文化芸術の力で「小さな世界都市ーLocal & Global Cityー」をめざすなど、独自の施策を展開している。

多様性はまちの原動力になります。

すべての女性が自分のありたい姿を描き、自分の未来を輝かせるためには、仲間とともに一步を踏み出す勇氣が必要です。

豊岡市は、環境破壊によって日本の野外で一度絶滅したコウノトリを、50年に及ぶ努力によって再び空に帰しました。一步步、一步步の努力の積み重ねでした。

2018年、職場のジェンダーギャップを解消する挑戦を始めました。

願いは必ず叶うと信じて、一步步、一步步、前へ。



氏名:西尾 章治郎
役職:大阪大学総長
出身:日本
(略歴)

京都大学で博士号取得(工学博士)。1988年以来大阪大学で勤務。情報科学研究科長等を歴任後、2015年より現職。情報処理学会の会長を務める。2016年文化功労者。2018年文部科学省事業による全国ダイバーシティネットワーク総括責任者。

このたび、我が国においてWAW!/W20が開催されますことを心からお慶び申し上げます。

大学は本来、性別、国籍等を越えた真のダイバーシティ空間であるべきであり、その多様な価値観の下で各人の個性や能力が存分に活かされてこそ、大学の真価が発揮できるものと考えています。

大阪大学は、大学、企業、研究機関等の壁を越えたオープンな取り組みを通じて、「女性が輝く社会」の実現に貢献したいと考えています。



氏名:バラカ・ニヤジー
役職:P&G 韓国 代表
出身:インド
(略歴)

P&G入社後、インド、欧州、シンガポール、韓国と文化の異なる 4 力国での生活を経験。社内においては組織育成・改革に情熱を注ぎ、何人もの優秀な女性マネージャーを育成してきた。現在P&G アジアパシフィック地域の男女共同参画プロジェクト #WeSeeEqualのスポンサーを務める。

平等とは女性の問題ではありません。全ての者にとって、社会的および経済的に必要不可欠なもので、男女が共に女性の援護者として解決に向けて貢献することが必要です。この度は、WAW! 2019の登壇者やパネリストのチームの一員として参加することが叶い、とても光栄です。P&Gが、社内や外部で取引先と、またメディアに向けた我々の声を活用し、性別に囚われない世界を育成している取り組みを共有させていただくことを楽しみにしております。男女の平等はビジネス戦略であり、通説への挑戦や方針の策定、そして男性との連携を慎重に検討すれば、大幅に改善すると信じています。WAWに参加し、示唆に富む考えや行動指向の対話を楽しみましょう！



氏名:太田 彩子
役職:営業部女子課代表理事
出身:日本
(略歴)

リクルートの営業職を経て、現職。営業女子コミュニティ「営業部女子課」を主宰し、3600人以上の女性営業職のネットワーキングを全国で展開。内閣府「女性のチャレンジ賞」受賞。コナカ社外取締役、アライドアーキテクト社外取締役。

今年で5年目のWAW!。W20と同時開催という記念すべき節目です。私たち一人ひとりが「女性が輝くこと」を考え、議論し、発信し、歴史を塗り替えていく瞬間であります。小さな一歩が大きな変化に繋がることを信じて、一緒にアクションを起こしましょう！



氏名: 翁愛華 (アイ・ウア・オン)

役職: ジョンソン・エンド・ジョンソン ヤンセン・アジアパシフィック
カンパニー・グループ・チェアマン

出身: シンガポール

(略歴)

患者の人生を変えることを希望に、約25年以上前にジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社に入社。ヤンセン・アジア・パシフィックのカンパニー・グループチェアマンとして、アジア太平洋8地域に渡る市場に製薬のイノベーションをもたらす活動を統括。女性のリーダーシップに関して強力な支持者であり、精力的な奉仕活動者。

W20サミットは、女性の経済権限の付与をめぐり、世界的に弾みをつける重要な機会です。女性の権利と男女平等を実現し、教育、キャリア、ヘルスケアへのアクセス等の重大な問題に取り組む上で重要です。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、健康は経済的繁栄を発展させるために不可欠であり、女性はより健康な地域社会を築く上で重要な存在であると考え、女性の権利拡大に全力を注いでおります。私たちは、2030年の持続可能な開発目標の達成を目指し、W20サミットの重要な作業と未来のサミットの進展を支援することを楽しみにしています。



氏名: 大崎 麻子

役職: 関西学院大学客員教授／Gender Action Platform理事

出身: 日本

(略歴)

コロンビア大学国際公共政策大学院で国際関係修士号を取得後、UNDPで途上国のジェンダー平等と女性のエンパワーメントの推進を担当。現在は、ジェンダー主流化の専門家として、国内外で調査、アドボカシー、人材育成に従事している。

女性が「真に」輝き、活躍する社会を作るには、性差別を無くし、女性や少女に対するあらゆる暴力を撲滅するための真摯な取組みが不可欠です。そのための処方箋が、SDG5。世界の国々と互いに学び合い、協力しながら、ジェンダー平等社会を創っていきましょう！



氏名: エレナ・ロドリゲス

役職: ノバルティスAG ダイバーシティ&インクルージョングローバル責任者

出身: アメリカ

(略歴)

カリフォルニア大学バークレー校で理学修士号取得。グローバル医薬品開発部門において、早期開発パイプラインの責任者として研究開発手法の改革に従事。研究所のリーダーの一員として、小規模な研究所をノバルティスの創薬の原動力になるまで発展させた。現在は、ノバルティスがイノベーションを創出し、社会により貢献するためのD&I戦略をリードしている。

このたびのWAW!/W20Iにおいて、男女平等とインクルージョンの重要性に光を当てることができ、大変光栄です。私は、本会合に参加されるリーダーや市民社会の皆さまの闊達な議論を拝聴し、皆さまとお話できる機会を楽しみにしています。また、すべての女性が受け入れられ、参画でき自分らしさを最大限に発揮できる社会の実現に向けてG20が今後も進展し続けることを期待しています。



氏名: 佐藤 可奈子

役職: スノーデイズファーム株式会社代表取締役

出身: 日本

(略歴)

立教大学卒業後、新潟県十日町市の限界集落に移住、就農。「中山間地域の農業のもつ、ひとをはぐくむ力を未来に繋げたい」思いで、スノーデイズファーム株式会社創業。農園であり、異業種のチームで編成したものづくりチーム。内閣府男女共同参画担当大臣表彰「平成29年度女性のチャレンジ賞」受賞。

多様な国、多様な価値観のなかで女性として自身の感性を社会へ届けてきた方々の言葉に触れることが、とても楽しみです。

私自身、普段は現場で農業に従事していることが多いので、そこで学んできたこともお伝えできればと思います。



氏名: 庄司 健治

役職: 全国民生委員児童委員連合会副会長

出身: 日本

(略歴)

1994年1月に民生委員・児童委員を委嘱される(民生委員歴25年)。2008年4月より仙台市民生委員児童委員協議会会長、2018年3月より現職。民生委員・児童委員として、日々、地域住民の福祉向上に向け支援活動を行うとともに、地域の子育ち・子育てに関する支援を行っている。

民生委員・児童委員は、地域住民の立場に立って地域の福祉を担うボランティアです。日本全国に23万人を超える委員がいて、各地で地域住民のひとりとして、高齢者や障がい者の安否確認や見守り、子どもたちの育ちへの支援などを行っています。とくに近年は子どもの虐待や子どもの貧困が課題になっていますが、子どもの抱える課題は子どもだけではなく、世帯全体の課題であるため、民生委員・児童委員として世帯全体を支援し、必要な支援先につなげる取り組みを行っています。



氏名: クレア・シブソープ

役職: Connected Women and Connected Society at GSMA代表

出身: カナダ／英国

(略歴)

Connected Women and Connected Society at GSMA代表。20年以上に渡り情報通信技術に焦点を当てた社会政策推進に公共団体、任意団体、国際機関と一緒に取り組んでいる。ロンドン大学LSEにて社会調査法修士課程及び、発展途上国の社会政策と計画修士課程卒業。

デジタル技術は女性にとってのエンパワーメントであり、情報、サービス、そして人生を充実させる機会へとつながります。現在でも依然として、個人間のコミュニケーションの最も一般的な手段である携帯電話の所有や使用、およびインターネットへのアクセスは男性に比べ女性の方が低いのが現状です。GSMAの調査によると、中低所得国では合計11億人の女性がモバイルインターネットにアクセスできていません。デジタルジェンダー格差を解消するためには、すべての女性がデジタル技術を利用し、これらの機会を享受できるようにする必要があります。女性と社会をつなぐことは、地域社会、経済、そして社会の発展に、より多くの恩恵を与えることができるでしょう。女性の繁栄は、社会、企業および経済の繁栄を意味するのです。



氏名:高橋 則広

役職:年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)

理事長

出身:日本

(略歴)

東京大学法学部卒業後、1980年農林中央金庫入庫。同長崎支店長、債券投資部長、開発投資部長、常務理事、専務理事等を歴任し、2015年JA三井リース株式会社代表取締役兼社長執行役員就任。2016年4月より現職。持続可能な開発目標(SDGs)推進円卓会議構成員。

このたびはWAW!/W20開催おめでとうございます。GPIFは2017年に、環境・社会・ガバナンス(ESG)を重視して投資する手法のひとつとして、「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」を選定しました。この指数は、女性活躍推進法に基づいて企業が開示するデータを使い、女性社員・役員の活躍が進んでいる企業に投資するもので、情報開示に積極的な企業の評価が高くなるよう設計されています。こういった投資がジェンダーダイバーシティを後押しし、企業価値の向上につながることを期待しております。



氏名:田中 伸男

役職:公益財団法人 笹川平和財団 会長

出身:日本

(略歴)

1972年東京大学経済学部卒業、翌年通商産業省入省。経済産業研究所副所長、経済産業省通商政策局通商機構部長、経済協力開発機構(OECD)科学技術産業局長などを経て、2007年～2011年に日本人初となる国際エネルギー機関(IEA)事務局長。現職は東京大学公共政策大学院 客員教授、笹川平和財団 会長。

日本の社会を変えるのは女性の活躍です。国会も、官界も、財団も、ビジネスでも例外はありません。この度の協力を光榮に思います。



氏名: 田中 聡

役職: 三井物産株式会社 代表取締役副社長 執行役員

出身: 日本

(略歴)

1981年三井物産入社。エネルギーやコンシューマーサービス分野で豊富な経験を有し、IR部長、経営企画部長、コンシューマーサービス事業本部長、アジア・大洋州本部長等を経て、2017年6月に取締役就任。東京大学文学部卒業、ハーバード大学経営学修士(MBA)

一人ひとりの「個」が輝く社会

グローバル市場で日本企業が持続的に企業価値を高めていく為には、多様性の尊重が必要不可欠です。性別・国籍・年齢を問わず、一人ひとりの個性を尊重し、様々な視点や異なる価値観を柔軟に取り入れることにより、豊かな発想と新たな価値が生まれます。「女性が輝く社会」の構築は、女性だけでなく男性も含めて、一人ひとりの「個」が輝く社会の実現に繋がります。



氏名: 田中 俊之

役職: 大正大学心理社会学部准教授

出身: 日本

(略歴)

男性学を主な研究分野とする。著書に『男が働かない、いいじゃないか!』講談社プラスα新書など。日本では“男”であることと“働く”ということとの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている。

「男は仕事、女は家庭」から「男も女も、仕事も家庭も」へ。女性活躍というこうした転換をイメージするかもしれません。しかし、現代の日本社会では、生涯未婚率が男性で23%、女性でも14%に達しています。結婚するのが「普通」ではなくなってきているのです。また、自治体による同性パートナーシップ制度の取り組みが象徴するように、「男と男」、「女と女」のカップルもいます。女性が輝くためには、特定の家族観にとらわれず、誰もが生きやすい社会の実現が必要なのです。



氏名: 鄧 麗(とう れい)

役職: 第十三回全国人民代表大会常務委員会委員 全国人民代表
大会社会建設委員会委員

中華全国婦女連合会党グループメンバー 中国婦女児童博物館
館長

出身: 中国

(略歴)

1987年より中国の女性や子どものための活動に献身。長年、女性の政治参画や教育訓練、権利保護、幼児教育など女性の問題に多角的に取り組み、実り多い結果を残す。2000年から2007年には中華全国婦女連合会の權益部部長、続けて児童部部長も務めた。中華全国婦女連合会事務局メンバー(2013年～2018年10月)、中華全国婦女連合会副主席(2016年～2018年10月)を歴任後、2018年10月より現職。

中華全国婦女連合会を代表し、第5回WAW!/W20の開催を心からお祝い申し上げます。歴史を振り返ると、女性の解放と発展なしには、人類の解放や発展も達成しえなかったでしょう。中国はジェンダー平等を基本的国策として推し進め、「天の半分を支える」重要な役割における女性の活躍を促し、女性のキャリアと人生双方における夢や願望の実現のための支援に力を尽くしてきました。中国の女性たちは、彼女たち自身の成長により、国際的な女性運動や世界におけるジェンダー平等に大きく貢献しています。我々は各国代表との交流および友好関係を強固なものとし、女性の包括的な成長と全人類が分かち合う未来の構築に向けて、更なる貢献ができることを楽しみにしています。



氏名: 津坂 美樹

役職: ボストン コンサルティング グループ

シニア・パートナー & マネージング・ディレクター

出身: 日本

(略歴)

ハーバード大学政治学部及び東アジア研究学部卒業(Magna Cum Laude)、同大学経営学修士(MBA)。BCGグローバルのチーフ・マーケティング・オフィサー。2013-18年にかけてBCGグローバル経営会議メンバーを務めた。

WAW!/W20により女性活躍の今一步の推進が実現できるものと期待します。昨今では「ダイバーシティ疲れ」という言葉も登場するほどですが、日本の現状は国際社会の一員としてあるべき水準には程遠いと言えます。労働人口の急速な減少によりこれまで以上に人材活用を進める必要がある日本では特に、空前の人数が仕事に戻ることで大きな労働力を創出できる「女性」は解決策の極めて重要な要素です。男性と女性がどう協働して経済活動への参加を進めるか。これが、日本の活力と未来を握るカギです。



氏名：ダイアナ・ヴァン・マースダイク
役職：Equileap社 共同創設者兼 CEO
出身：オランダ
(略歴)

ハミルトン大学教養学部卒、アメリカ大学国際開発学修士。
ABNAMRO民間銀行の慈善事業における責任者であり、女性の権利を主とした国際的な助成団体「ママ・キャッシュ」の開発部長を歴任。企業部門におけるジェンダー平等に関するデータと多角的な視点による調査・分析を提供するEquileap社の共同創設者兼CEO。

世界経済フォーラムはジェンダー平等を「人類の発展と経済成長のための、ただ一つにして最大の機会」と呼んでいます。

「ジョンもしくはジェームスという名前のCEOに出会う確率は、女性のCEOに出会う確率よりも高い」などという、エンパワーメントを妨げるような統計によって足止めされるのではなく、Equileap社はこの好機を逃さずジェンダー平等を推し進めたいと思っています。

これは我々全員にとってのチャンスです。男性か女性かという話ではなく、男性の代わりに女性を、という話でもありません。これはインクルージョンであり、そして、人口の半分を占める人々のポテンシャルを最大限に成長させることを阻んでいる、組織的ハードルを取り除くことなのです。



氏名：エリザベス・A・ヴァスケズ
役職：WEConnect International CEO・共同設立者
出身：アメリカ
(略歴)

女性の経済エンパワーメントと世界の供給におけるダイバーシティとインクルージョンに関する著者であり世界のリーダーで、100か国以上に渡る更なる商品購入やサービスを女性資本ビジネスのネットワークに求める多くの消費者に対し非営利国際資格を率いる。タフツ大学フレッチャースクール法・外交学修士卒業。

女性が輝く社会の実現とG20各国における女性の経済的エンパワーメントへの支援に向けて、私たちが集まる機会を提供してくださったWAW!/W20のみなさまに、WEConnect Internationalを代表してお礼を申し上げます。特に、日本において、W20が女性の起業やイノベーション、企業成長、通商ネットワークの構築、雇用の創出といった、社会への付加価値を生み出すベンチャー企業や成長企業で、益々女性が重要な役割を果たしているという事実注目していることを頼もしく感じています。私たちすべてにとって包摂的かつ持続可能な成長の実現に向けた一助となるべく日本にご招待いただけたことを心から光栄に思います。



氏名：メラニー・バービア

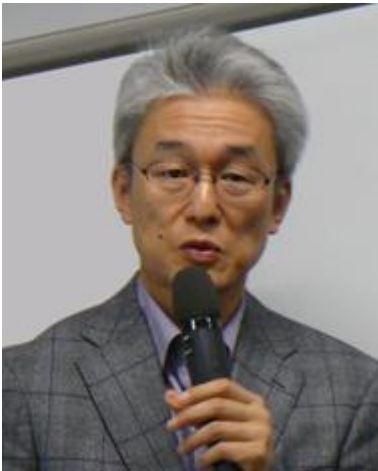
役職：ジョージタウン大学女性・平和・安全保障研究所長

出身：アメリカ

(略歴)

初代の米国国際女性問題担当大使として、女性の政治的、経済的及び社会的前進に関する外交政策と各種活動の調整に尽力。バイタルボイス・グローバルパートナーシップ会長兼共同CEO、クリントン政権での大統領補佐官及び大統領夫人首席補佐官を歴任。欧州安全保障協力機構特別代表も務める。

今回のWAW!/W20は、SDGsの文脈に基づき、女性の経済・社会・政治的活躍の推進のために重要な問題を扱っています。「ジェンダー平等・女性のエンパワーメント」は、全てのSDGs目標の達成のために重要であり、その触媒となります。さらにW20とWAW!の合同開催は、女性のテクノロジー、起業等の経済的参画や労働におけるジェンダー格差を埋めるために決定的であり、ワークライフバランスや性別に関する固定観念に関する議論を通じて、多くの課題の解決を促すでしょう。紛争解決や平和構築における女性のリーダーシップも、平和及び安全保障のために重要な役割を果たします。これらの課題での前進が「女性が輝く社会」の実現をもたらすでしょう。



氏名：鷲尾 天

役職：東映アニメーション 執行役員 第一映像企画部部長

出身：日本

(略歴)

東映アニメーション所属。『プリキュア』シリーズ初代プロデューサー。第1作『ふたりはプリキュア』(04)～『Yes!プリキュア5GoGo!』(08)まで務めた後、『Go!プリンセスプリキュア』(15)からは企画として携わっている。他に『トリコ』『おしりたんてい』など。

このような意義深い会議に参加でき光栄です。女兒に向けたTVアニメーション「プリキュア」シリーズが15年も続いていることは私にとって驚きであり、当時はジェンダーという単語が今ほど一般的ではなかったと記憶しています。子供は与えられたものを受け入れてしまうので、大人が「正しい認識」を持って製作しなければならないことを学びました。「15年前の子供たち」が、近い将来社会を動かしていくことを期待しています。



氏名: 吉田 晴乃

役職: W20共同議長／慶應義塾大学評議委員

出身: 日本

(略歴)

4か国・5社のグローバルIT企業でキャリアを積む。2015年経団連初の女性役員。2016年内閣府規制改革推進会議委員会。2017年フォーチュン誌のWorld's Greatest Leaders50に選ばれた唯一の日本人。

「女性のエンパワメント 新しい成長のカタチ」

世界25億の女性を代表するW20。今年のテーマだ。地球上の半分以上が新たな生き方に目覚め創る時代のカタチ。

女性たちのエンパワメントによる新たな富の流通と繁栄である。

WAW/W20で集う女性たちの躍動感を楽しむ女性たちの鹿鳴館。

世界の仲間たちといっしょなら、勇気もってはいばたける。

この時代に生まれた女性としてこの素晴らしい機会にただただ感謝するのみである。

この2日間大いに楽しもうと思う。



氏名: マララ・ユスフザイ

役職: マララ財団共同設立者、ノーベル平和賞受賞者

出身: パキスタン

(略歴)

父親の活動に影響を受け、女子教育のための公のアドボカシーを開始、国際的なメディアの関心を集め表彰を受けた。公の場で語ることを理由にタリバーンから攻撃を受けたが、英国で回復し女子のための闘いを続けた。全ての女子のための自由、安全かつ質の高い12年教育修了に向けた取組が認められ、ノーベル平和賞受賞。

テクノロジーが私たちの生活や学習、生計に変化をもたらす中、ドロップアウトした女子生徒や若い女性およそ10億人が更に取り残されるリスクにさらされています。女子が未来の仕事に携わるには、カリキュラムの見直し、教員の増加、資金、データの改良や社会変革が必要です。2019年のWAW!は、女子みんなが学校に通い、私たちにとってもっと公正な世の中にするための行動を取るよう、リーダーに影響を与えることでしよう。



氏名: エカテリーナ・ザハリエヴァ
役職: 副首相兼外相
出身: ブルガリア
(略歴)

フランス国立行政学院(ENA)、欧州委員会他における研究留学歴あり。2017年5月、司法改革担当副首相兼外相に就任。2015年～2017年まで司法相、2009年～2013年まで地方開発公共事業省副大臣、2013-2014年まで大統領府官房長を務めた。ブルガリア法学会連合による名誉記章あり。

安倍総理がかつて述べた有名な言葉にあるとおり、「女性の力」は、誰も疎外感を感じることなく、平等こそが主導力を発揮する活力に満ちた社会を作り上げるための原動力となる最大の可能性を秘めています。そして、それは、女性達がその強みを最大限に発揮出来てこそ、可能となります。

しかし、現状はどうでしょうか？今日、「女性が輝く社会」へ向けた動きは加速しています。しかし、我々は依然として、ジェンダー平等と、全ての女性及び少女のエンパワーメントの達成(目標5)を促すための「持続可能な発展のためのアジェンダ2030」達成へ向け、多くの課題が残っています。女性が平等であると実感できるようになることが人権なのです。より適切な女性の社会的及び経済的関与を通じて、我々はそれを示さなくてはなりません。



氏名: ミッシェル・ベッカリン
役職: 米国国際開発庁 E3局副局長
出身: アメリカ
(略歴)

2017年から米国国際開発庁のジェンダー平等、女性エンパワーメント担当上級調整官になり、現在2019年に発表されたW-GDP(女性の地球規模の開発と繁栄のための基金)の実施を担当している。以前はIRIで上級ジェンダーアドバイザーを務め、また米国政府機関での数々の職歴がある。

女性たちは、経済的なエンパワーメントを得ることで、経済成長を加速し、世界の平和と安定への貢献といった相乗効果をもたらしながら、家族や地域に再投資します。大統領の国家安全保障戦略では、女性の市民生活および社会生活への本格的な参画を後押しする社会は、より繁栄した平和な社会であることを述べています。アメリカ政府は、職場や企業、国際経済における女性の成功を可能にする、今年ホワイトハウスで立案された「経済分野における女性の地位向上を目指すイニシアチブ」を支持していくことを誇りに感じています。女性たちは、自身を支え、家族や地域へ貢献することで輝けるのです。



氏名: ガブリエラ・ミケティ
役職: アルゼンチン副大統領
出身: アルゼンチン
(略歴)

国際関係・地域統合に関する修士号取得。アルゼンチンの変革に貢献すべく、2001年より政治の道に進む。その後の15年間、市議会議員、連邦下院議員、ブエノスアイレス副市長などを歴任。2015年、副大統領に当選。

真の社会変革と持続可能な社会の実現には、あらゆる分野の社会生活において女性たちが輝きを放つ必要があります。

そして、この変革には、まず私たち一人ひとりが個々の違いを尊重し、受容を学んでいくことが必要です。経験は最良の教師なのです。

また、私たちは、長年社会から取り残されてきた多くの女性たちが自身の本来の輝きを享受するとき、彼女たちに寄り添って歩んでかなくてはなりません。

そして今、公共政策を通して、いまだ実現されていない女性の権利を確立していかなければなりません。これらを実現する唯一の方法が、建設的な対話なのです。



氏名: マリヤ・ペイチノビッチ=ブリッチ
役職: クロアチア副首相兼外務・欧州問題大臣
出身: クロアチア
(略歴)

2017年6月に現職に就任。民間でのキャリア開始以降、2004～2008年に外務・欧州統合省副大臣、2008～2011年にクロアチア議会議員、2013～2016年に欧州政策専門家として活躍。ザグレブ大学経済学部卒業、欧州大学院大学で欧州学修士号取得。

本年のWAW!に参加することができ、大変光栄です。我々は、民主主義及び経済発展にとって重要である平等な権利や機会がある世界に向け、ともに努力する必要があります。その観点から、女性のエンパワーメントや起業、平和や安全保障への貢献等の女性に関する問題に焦点を当てたWAW!の役割を高く評価しています。このような取組みを通じてのみ、SDGsを実現し、全ての人々の人権が守られる包括的な社会を築くことができます。



氏名: 田中 美紗子
役職: ノバルティス ファーマ株式会社
オンコロジー事業本部 血液腫瘍領域事業部

出身: 日本

(略歴)

2002年ノバルティス ファーマ株式会社入社。2016年 多発性硬化症/視神経脊髄炎に罹患し右目を一時失明、半年の休職を経て復職。現在は血液腫瘍領域専門のMRとして勤務している。

半年間、病気で休職しました。再び社会人として仕事に向き合うことは、大変な恐怖でした。周囲のサポートのおかげで復帰できた今、病気という壁を経験したことを、決して後悔していません。女性が社会で活躍する時、抱える状況はそれぞれ異なります。挫折を恐れず自分を肯定すること、相手の状況に一度は寄り添ってみること、明日は明るいと感じること。「女性が輝く社会」は個の違いを社会があるがまま受け入れ、それぞれが明るい方向へ向かっていける様、お互いを尊重できる社会であると信じています。



氏名: ヘザー・バルナベ

役職: Girls 20 CEO

出身: カナダ

(略歴)

G(irls)20のCEOとして、カナダや世界中の女性の生活向上に取り組んできた。G(irls)20に参加する以前は、アフリカ、中東、アジアやラテンアメリカの複雑な女子教育や女性の保健介入をRight To Playや CARE Canadaにて統率。

W20セッション「デジタル時代のジェンダー平等」に登壇することを大変楽しみにしております。世界中で、女性・少女のデジタル技術へのアクセスおよび使用に対して多くの障壁が存在し、ますます経済的格差が広がっています。今、自動化や新しい技術がワークスペースを変えていく中で、どのようにG20が既存の問題に対処し、格差を減らし、女性・少女がデジタル空間へ十分に関わられるよう支援するのかについて議論をする重要な時期にきています。女性が輝く社会の実現のために、当日のディスカッションでは、女性のインターネットへのアクセス権と安全性、デジタル社会への参画を確実なものにするために必要となる緊急対策を取り上げる必要があります。



氏名:シンシア・ドレイクマン

役職: DoubleXEconomy 創設者・CEO

出身: アメリカ

(略歴)

オックスフォード大学博士号、プリンストン大学文学士号を取得。
DoubleXEconomyの創設者・CEO。2018年Gender-Smart
Investing Summitの開催研究内容上級アドバイザー。2017年国連
事務総長主催の女性の経済エンパワメント分科会第二報の筆頭
著者。2017年よりW20米国代表を務める。

女性が輝く世界とは、女性も男性も各々の才能や貢献が称えられ、ジェンダーによって区別をされない世界です。女性が世界にもたらす光は、身体や隷属によって女性の価値を決める社会により、たびたび覆い隠されてきました。私が思い描く世界は、女性の才能を育て、女性の教育を促進し、女性のリーダーシップを認め、また女性のニーズに応え、女性たちの成功をより高みへと押し上げてくれる世界です。女性起業家は新たなマーケットを切り拓き、女性の専門家たちの業績は、少年少女たちにインスピレーションを与え、女性の声はすべての場において歓迎され、尊重されるのです。



氏名:ステイシー・ケネディ

役職: フィリップ モリス インターナショナル 南アジア&東南アジア・リージョン担当社長

出身: アメリカ

(略歴)

2018年1月より南アジア&東南アジアリージョンの担当社長として
インド、インドネシア、フィリピン、タイを含む14以上のマーケット、
15,000名以上の社員の総指揮を執る。ランドルフ・メイコン女子大
学(米国)卒業。IMD(スイス、ローザンヌ)にてエグゼクティブMBA
を取得。

昨年アルゼンチンで開催されたW20に引き続き、フィリップ モリス インターナショナルとしてWAW!/W20に参加できることを非常に光栄に思います。現在、当社は「煙のない社会」をビジョンに掲げ、従来の紙巻たばこから健康リスク低減を目指す煙の出ないたばこ製品への事業変革を推し進めています。その変革の最中で、女性はもちろん当社のすべての人財の能力やアイデアを最大化していくことが必須であると認識しています。女性が日本及び世界でさらに活躍していくためのベストプラクティスをWAW!/W20を通じて皆さまと共有できることを楽しみにしております。



氏名:ガブリエラ・ラモス

役職:OECD首席補佐官兼G20シェルパ

出身:メキシコ

(略歴)

OECDのG7/G20/APEC/ASEANへの貢献を率い、包括的な成長、雇用、労働、性別、新たな経済の談話に取り組んでいる。2014年G20 Gender Target立案に関わる。フォーブス誌のEntrepreneurial Excellence受賞。ApoliticalのGender Equality Top100に選ばれる。フランスより功労章授与。ハーバード大学公共政策修士号取得。

人口の半分のエンパワーメントを無くして、私たちの望む未来を実現することはできません。OECDは、ジェンダー平等が経済成長に貢献するという研究に基づいた分析報告とともに、G20リーダーたちにジェンダー主流化をもたらすサポートを行いました。しかし、G20の掲げる男女平等の達成へ向けた進歩は、まだまだ遅れているのが現状です。私たちには今、ジェンダー平等に向けた根本的な意識改革や強固な法的枠組み、徹底的な政策の実施が求められています。メキシコでのNinaSTEM Pueden(女子のためのSTEM)のようなジェンダー中立的なイニシアチブは理想的です。OECDの公的生活におけるジェンダー平等に向けた提言は、各国での公的意思決定およびリーダーシップにおける女性参画の促進を支持します。G20およびW20が変革を進めるお手伝いはOECDにお任せください！



氏名:魚谷 雅彦

役職:(株)資生堂 代表取締役 社長 兼 CEO

出身:日本

(略歴)

1954年生。同志社大学卒業後、ライオン(株)入社。コロンビア大学MBA取得、外資系企業を経て、1994年日本コカ・コーラ(株)に入社、代表取締役社長・代表取締役会長。2013年(株)資生堂マーケティング統括顧問を経て、2014年同社代表取締役 執行役員社長。現在に至る。

SDGsに「ジェンダー平等を実現しよう」という項目がありますが、資生堂は2017年に女性のリーダー比率は既に30%を超えており、取締役会における女性比率はこの3月末に45%となります。(予定)

ジェンダーのみならず国籍や年齢、職業経験の違いなど、様々なバックグラウンドを持った多様な人材が集まり組織を活性化させることでイノベーションを促進し、企業ミッションである「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD」を実現します。



氏名: 山本 尚美

役職: (株)資生堂 執行役員 クリエイティブ本部長
兼 社会価値創造副本部長

出身: 日本

(略歴)

1987年資生堂宣伝部入社。2004年ニューヨークから帰国後、クリエイティブディレクターを務め、2015年に宣伝デザイン部部长。2018年チーフ・クリエイティブ・オフィサーに就任。2019年社会価値創造本部副本部長に就任。

「Love the Differences. 違いを愛そう。」

多様性を通じてイノベーションを生み出していくことを改めて社会に宣言した広告では、年齢・性別・国籍など多様な人物のイラストを配し、それらのピースを合わせると一つのハートになる仕掛けを施しました。SNS上でも共感を呼び、多くの方がシェアしてくれました。

日本はいつも、異なる価値観を敬い、かけ合わせて、新たな価値へと育んできました。この国に生まれた私たち資生堂は、違いを愛することから始めていきます。女性たちのエンパワーメントを高めることにつながると信じて。